れっつあにまろ

キンKIN

ANIMANDALA

シンカにミル・ココロのカタチ・シャエイ神代論

天海ヒロ(福田博行)

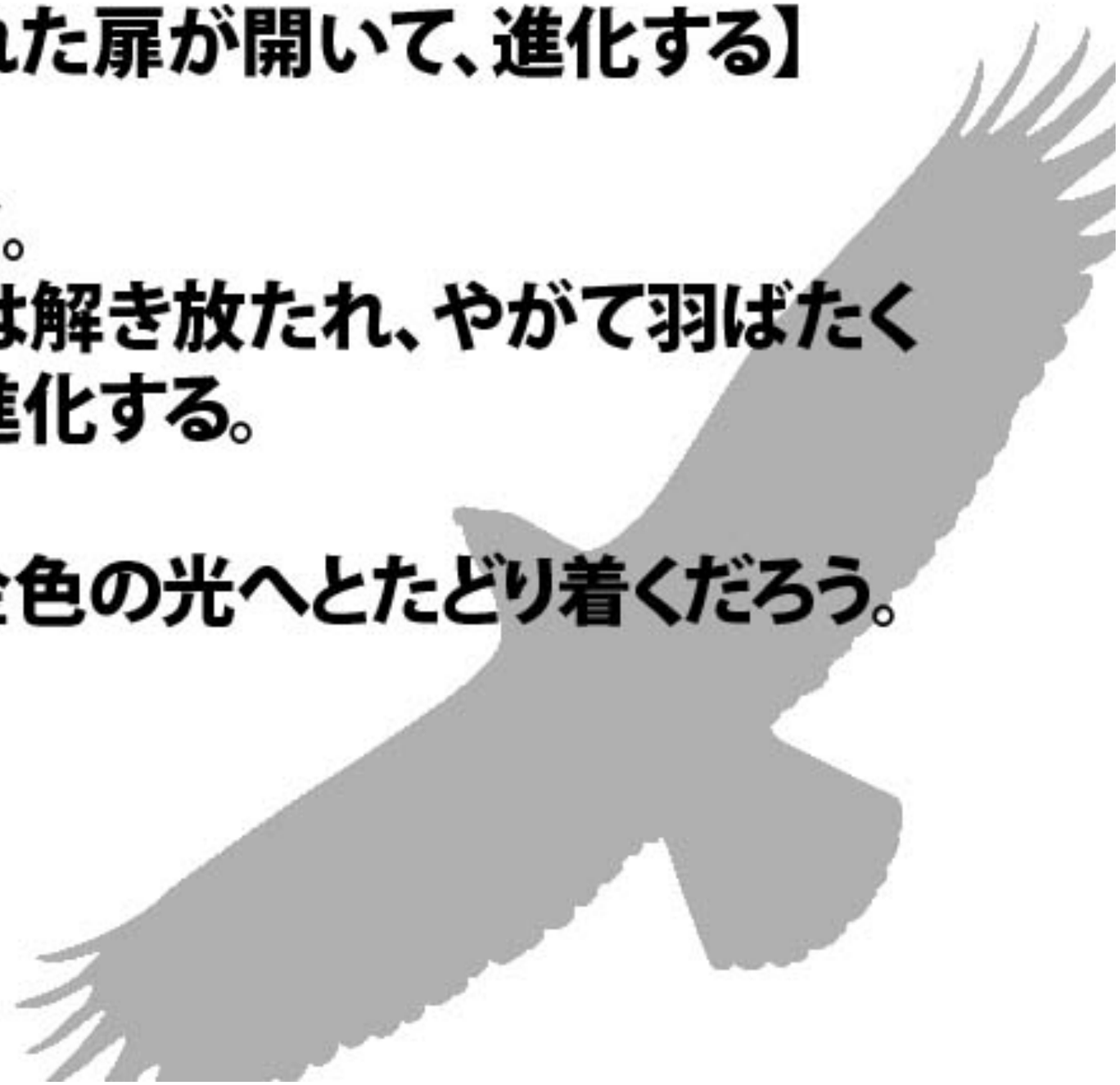
菌と禁と禽と金

菌と禁と禽と金。

結んで開いて。【禁じられた扉が開いて、進化する】

禁は緊縛の緊。そして禽。
縛りがほどけて、菌(禽)は解き放たれ、やがて羽ばたく
猛禽、一匹への鷲へと進化する。

そして鷲は天空に輝く金色の光へとたどり着くだろう。



禽じられ、
閉じた世界を開き、菌はやがて
金を得る

菌‥‥見えない生命。暗躍する潜象的生命体(細菌)*

禁‥‥明らかにしてはいけないもの。

禽‥‥鳥もしくは、捕らえられたもの。捕らえられた鳥。

金‥‥絶対的なもの。光。太陽。普遍。黄金。

*菌は元来キノコ類を示していましたが、ここではあえて病の原因となる細菌として、扱っています

キンの言霊

き

エネルギー、気、息吹、意識、心、兆し、発生すること、見えざる存在、霊、魂。ハワイでは、放つこと、考えを束ねたもの、力

ん

前の文字の言霊を強調、あるいは、深い納得、腑に落ちること

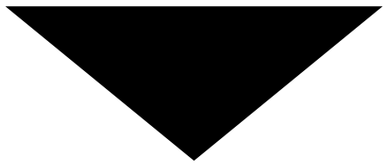
▼

強い"き"

▶カタカムナ(六甲カタカムナ土居、吉野信子さん他),白川神道などより参照

菌(細菌)

細菌は、近代になるまで、見る、触れるなど、知覚不能の生命体でした。しかし、病や発酵など人に大きな影響を与える、空間に偏在する存在でした。霊もまた、見えずに偏在し、不運や幸運と結びつけられてきました。菌は霊的なものと結びつきが深く、ある意味では、そのものだったとも言えます。



菌霊(タマ)

偏在する生命　　局在する生命

菌(見えない生命)と動植物(見える生命)の間には、存在の局所化、素粒子における波動の収束と相同の構造が見出せます。この谷間を見つめることで、こうした構造を命あるプロセスとして見出せるでしょう。

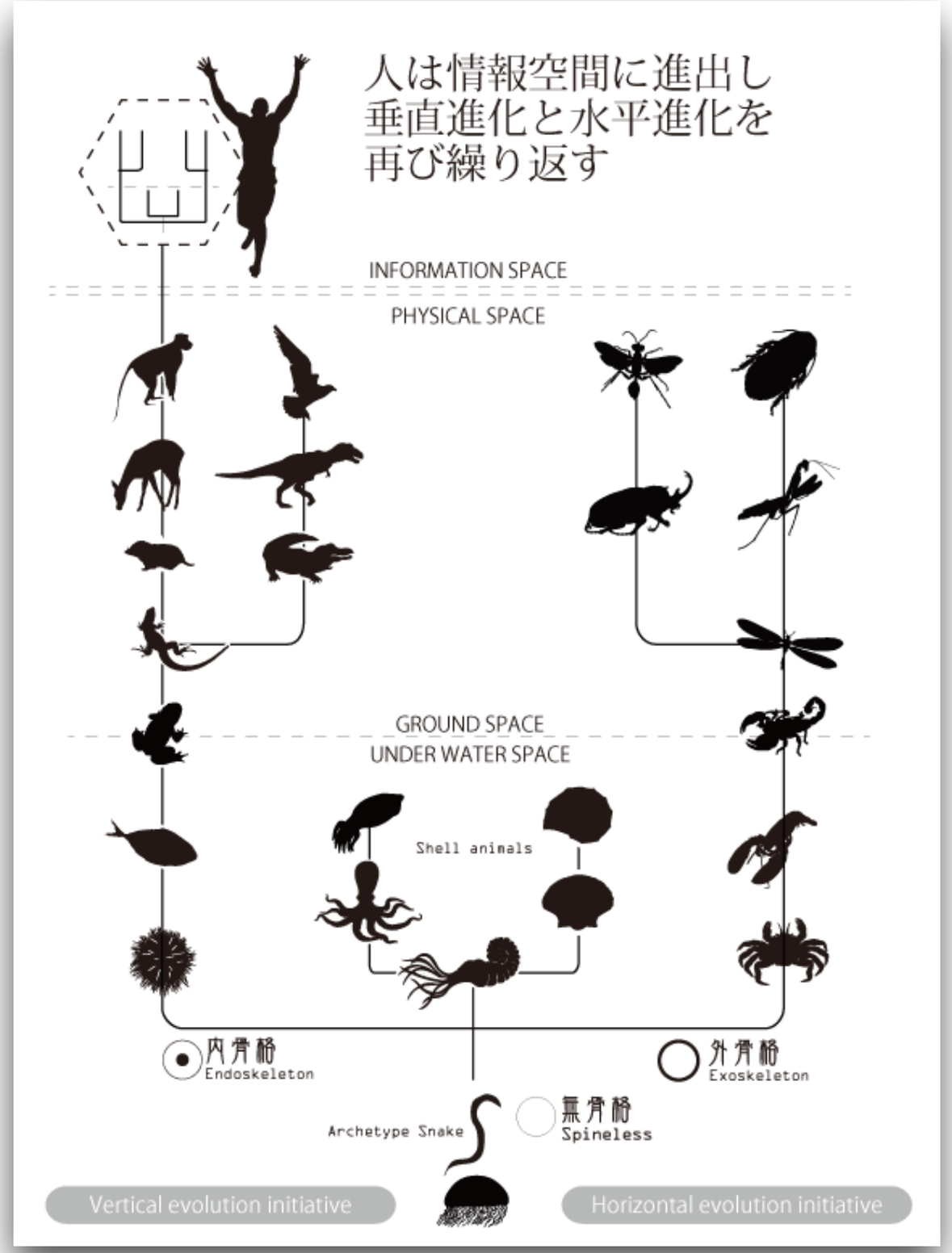
菌(見えない生命)と動植物(見える生命)の谷間とに横たわる禁と生命陰陽

アニマンダラの生命陰陽
外骨格と内骨格

生態系や進化に見られる、骨格を基準とした陰陽の対称性の表現こと。人の意識や自我にも外骨格系、内骨格系があります。
なお、無骨格のクラゲは太極的生命で動物とその前段階の中間領域的存在と言えます。

精神進化の系統樹

Animandala Explore



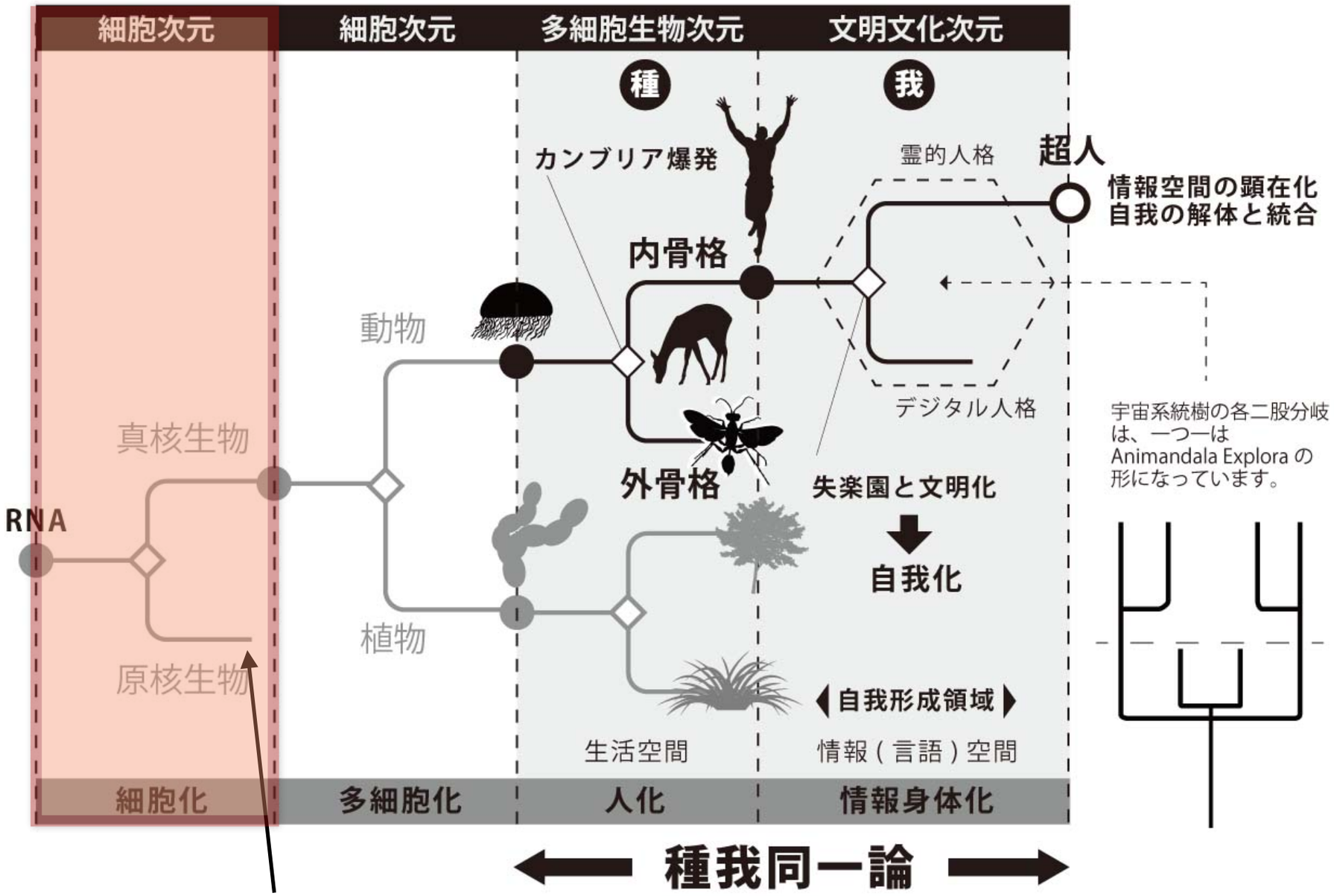
ANIMANDALA

シンカにミル・ココロのカタチ・シャエイ神化論

生物進化の系統樹をわかりやすく象徴化したものです。厳密なものではありません。

精神進化の系統樹 Animandala Explore

この世界がホログラフイック (フラクタル) に、部分と全体が同時に互いを飲み込み合うならば、AnimandalaExplora が描く生命系統樹は、全体を反映した部分 = 鋳型でもあります。それを前提として、物質生成から星まで、宇宙全体を貫く系統樹を類推したものが万物系統樹です。



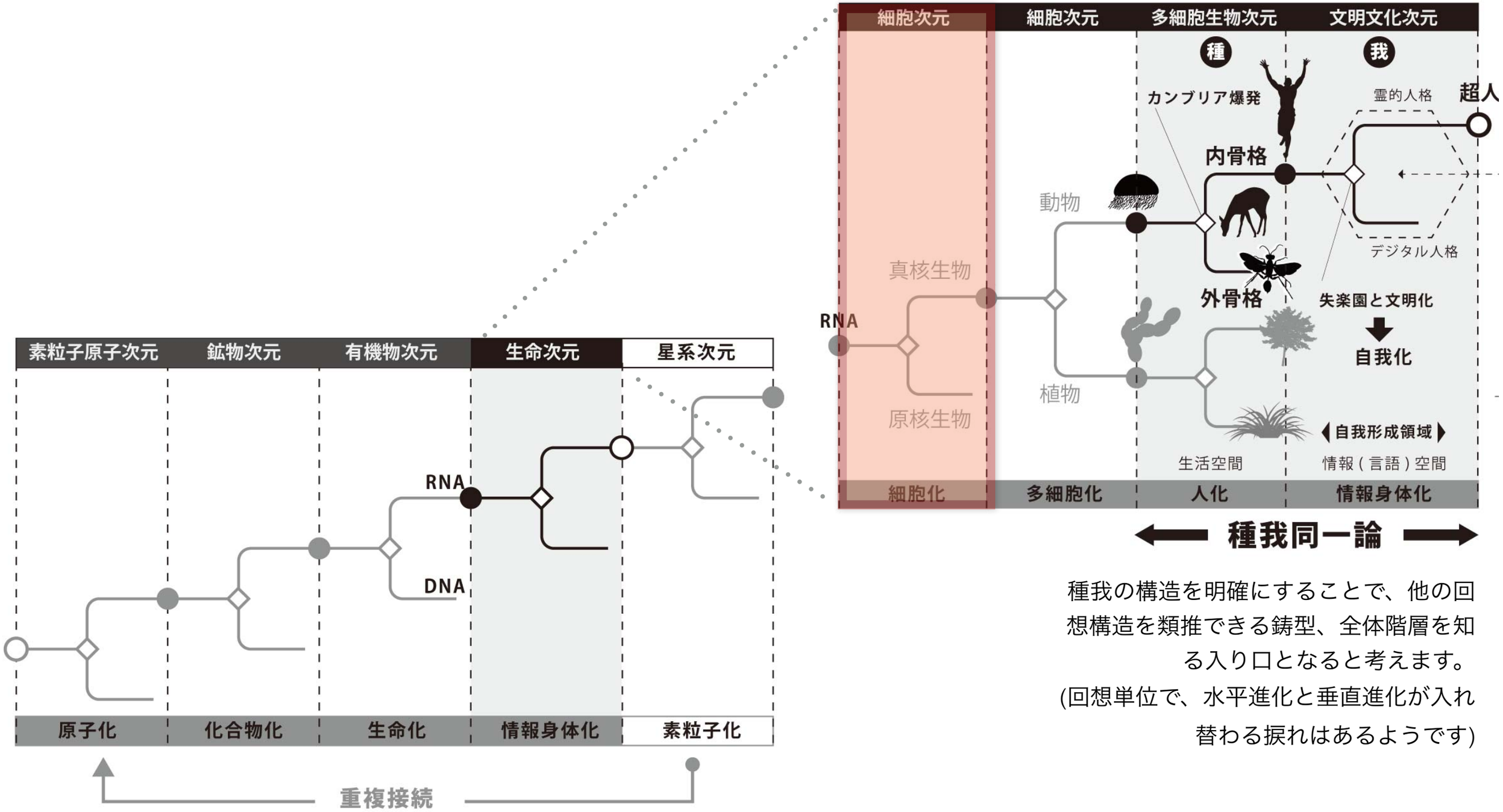
宇宙系統樹の各二股分岐は、一つ一は Animandala Explora の形になっています。

注;下の系統にも分岐は続きますが省略しています

精神進化の系統樹

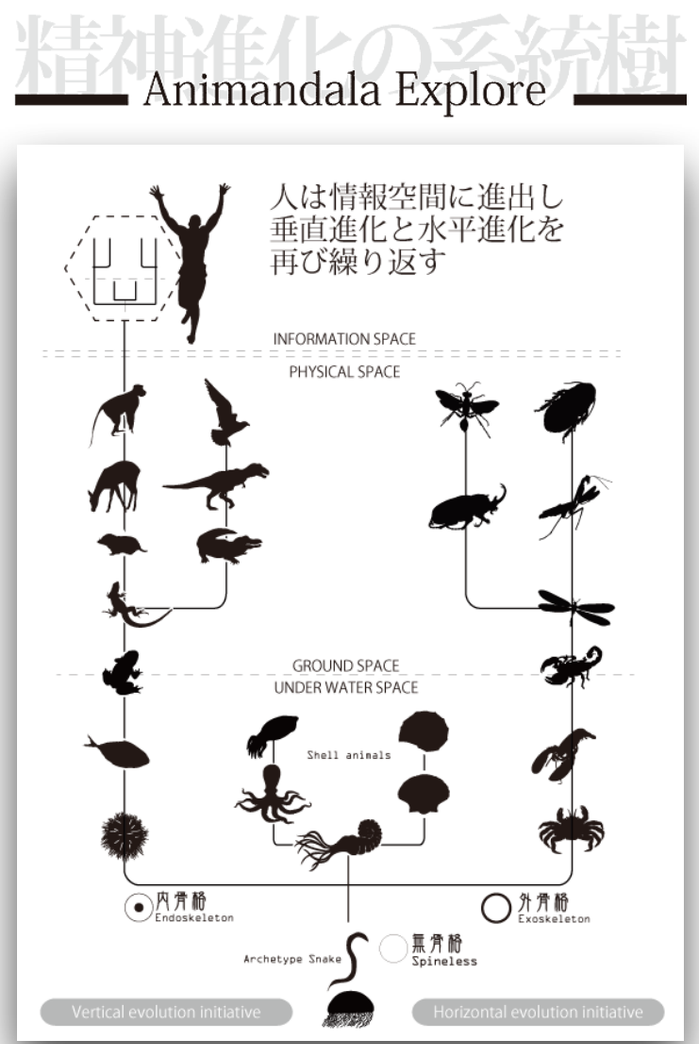
Animandala Explore

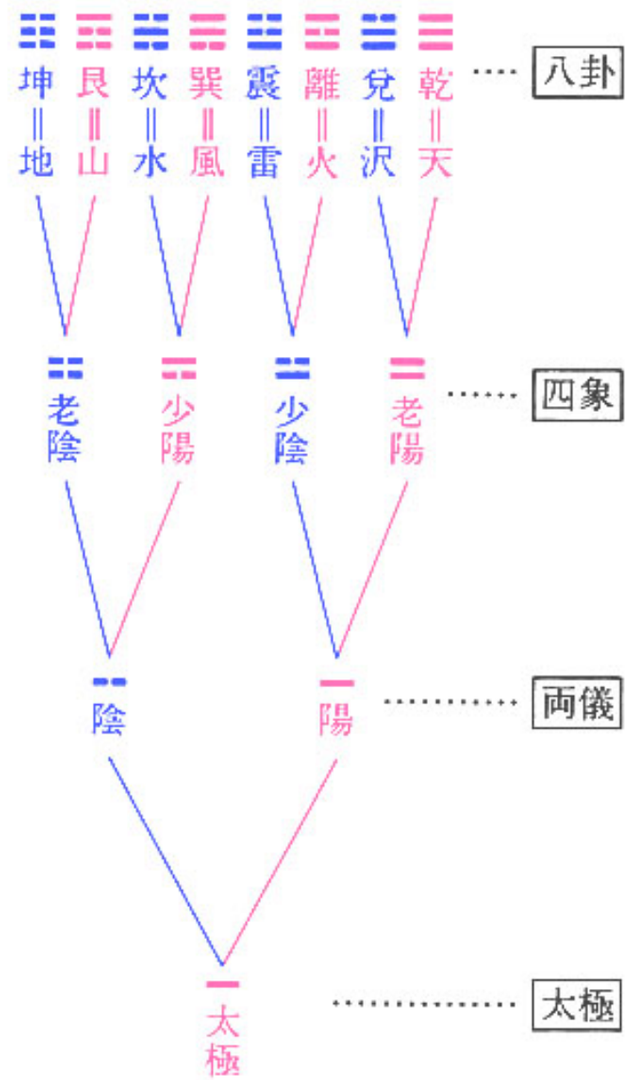
万物系統樹イメージ(仮)



種我の構造を明確にすることで、他の回想構造を類推できる鋳型、全体階層を知る入り口となると考えます。
(回想単位で、水平進化と垂直進化が入れ替わる捩れはあるようです)

生命陰陽 とアニマンダラエクスプローラとDNA





易の概念と相同構造。

そもそも、易とDNAとは、相同のデジタルデータ構造を持っています。

易‥‥二数6桁　64コード
DNA‥四進数3桁 64コード

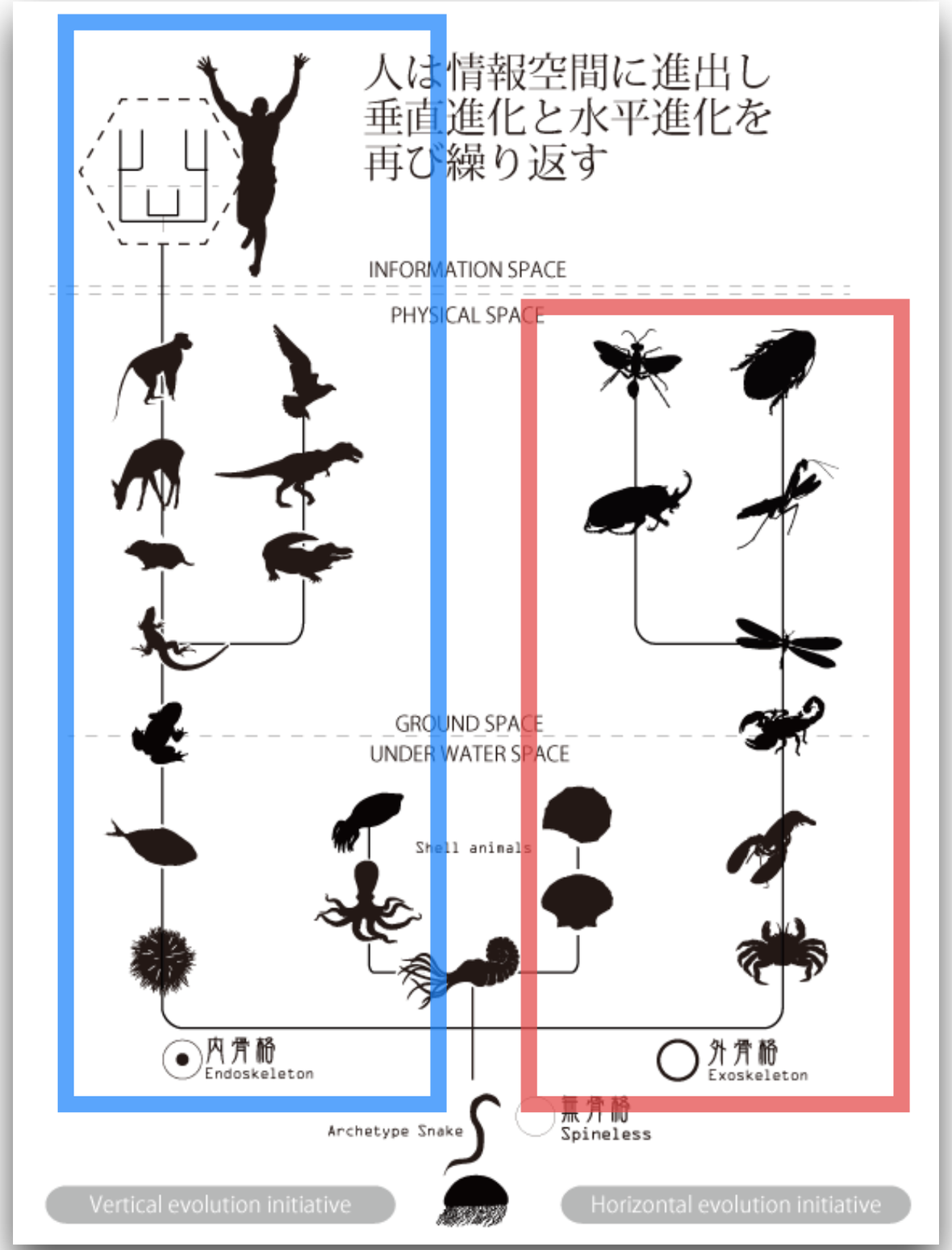
どちらも1～64にコード化されています。

精神進化の系統樹

Animandala Explore

垂直進化
内骨格

水平進化
外骨格



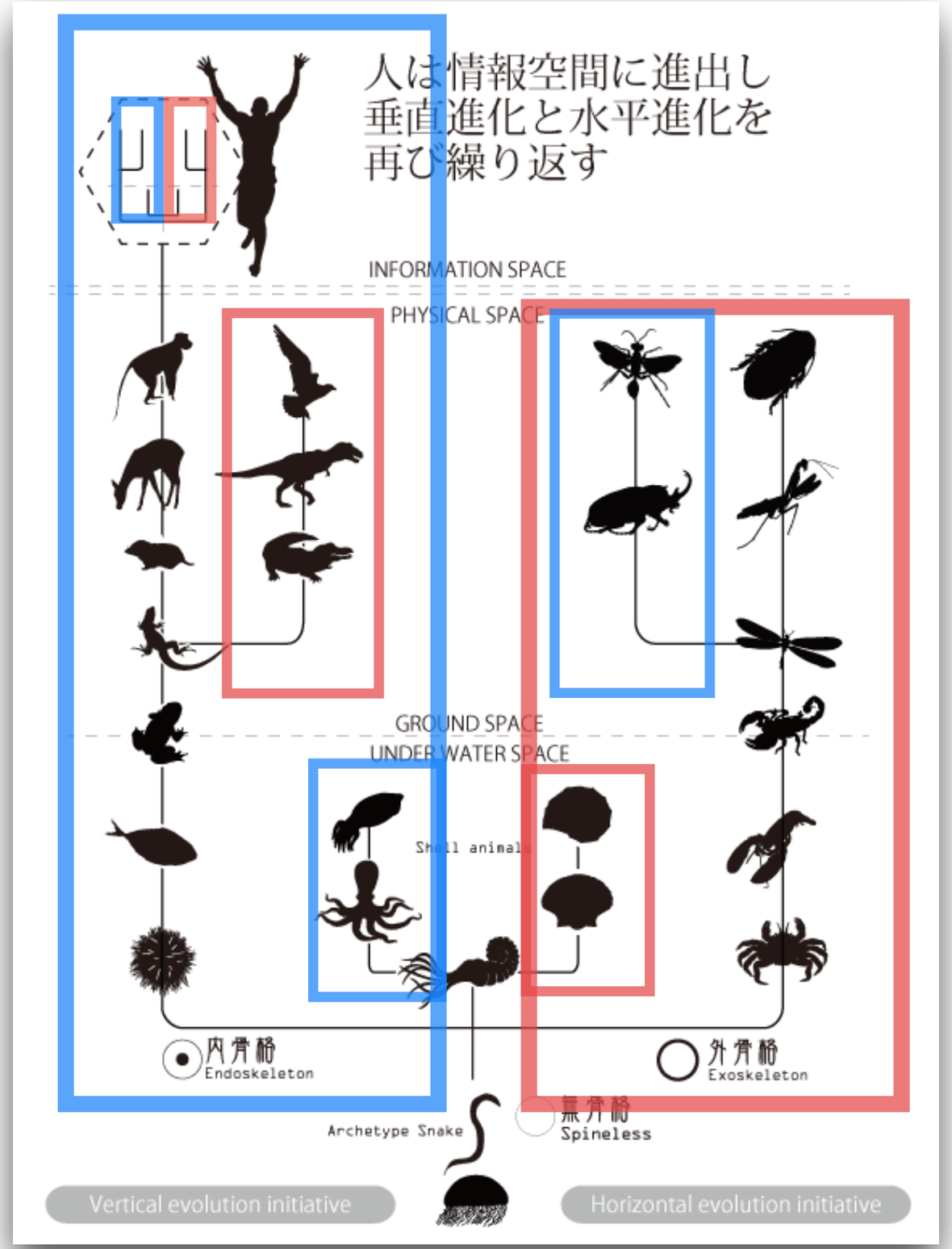
生物進化の系統樹をわかりやすく象徴化したものです。厳密なものではありません。

精神進化の系統樹

Animandala Explore

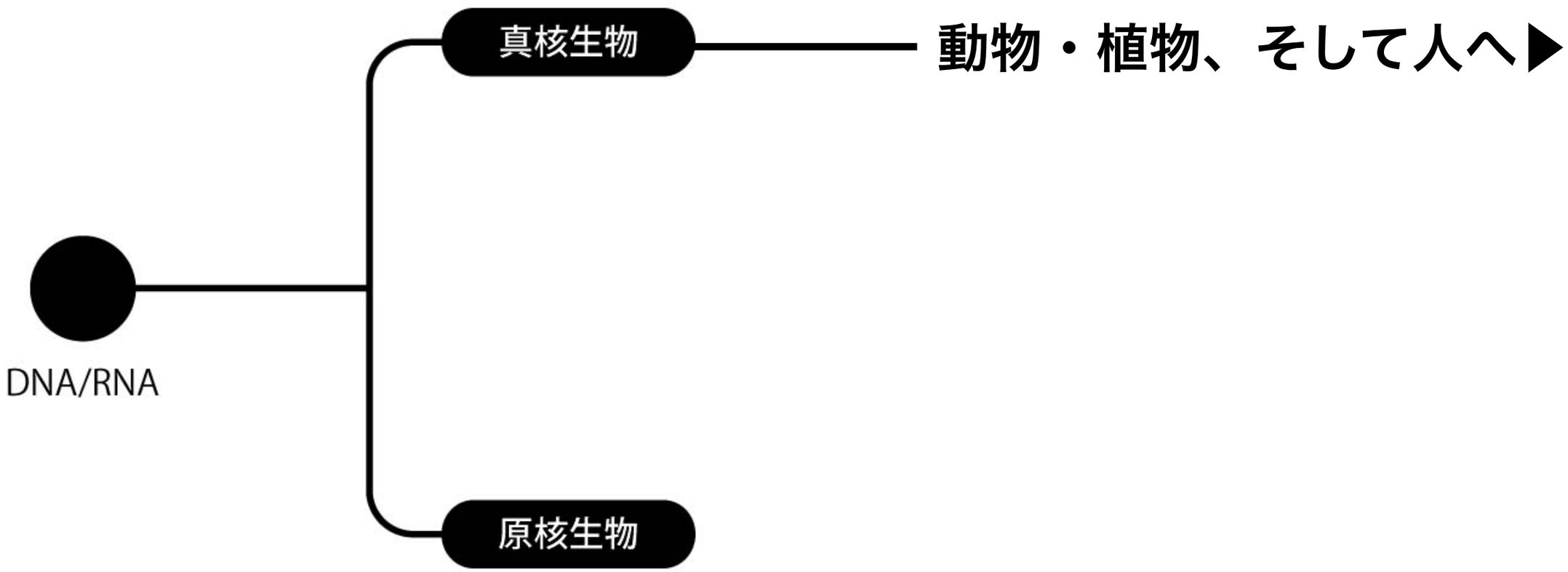
垂直進化
内骨格

水平進化
外骨格

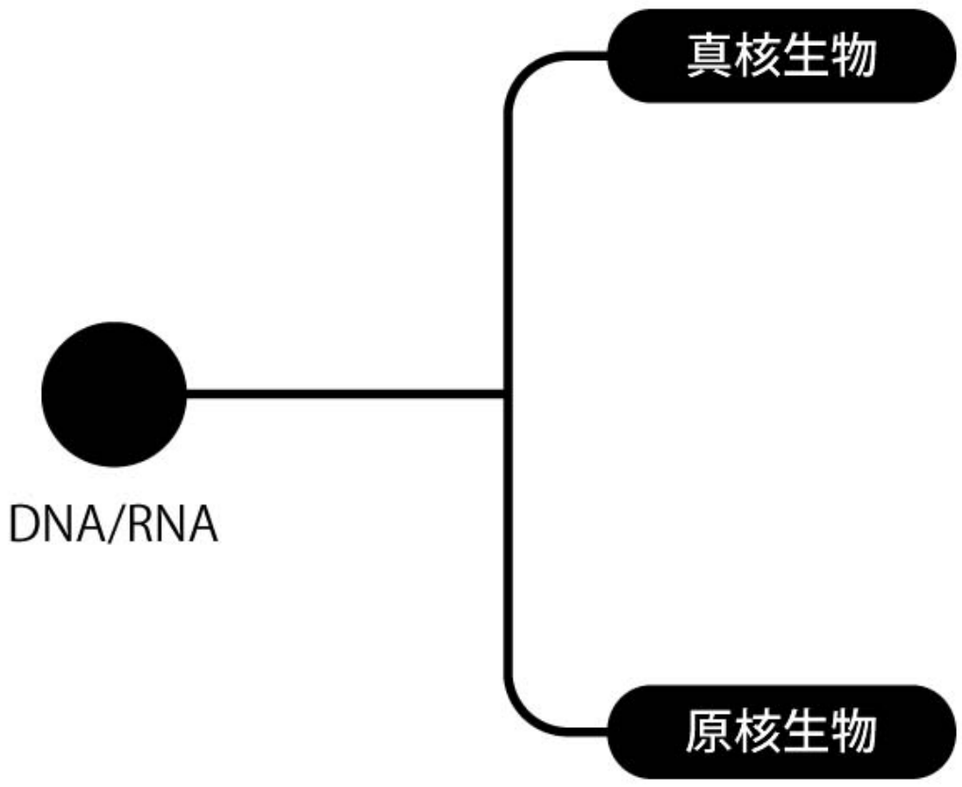


生物進化の系統樹をわかりやすく象徴化したものです。厳密なものではありません。

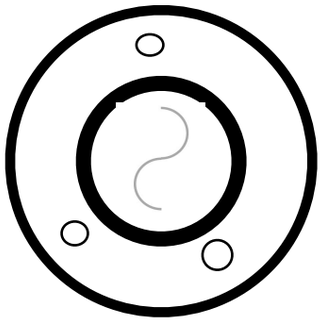
菌の生命陰陽　First step　最初の内骨格性と外骨格性



菌の生命陰陽　First step　最初の内骨格性と外骨格性

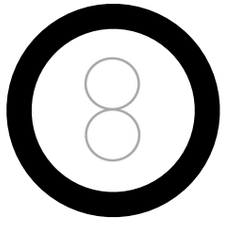


- 核を持ち、染色体が核膜の中にある
- 遺伝子が直鎖で開いている



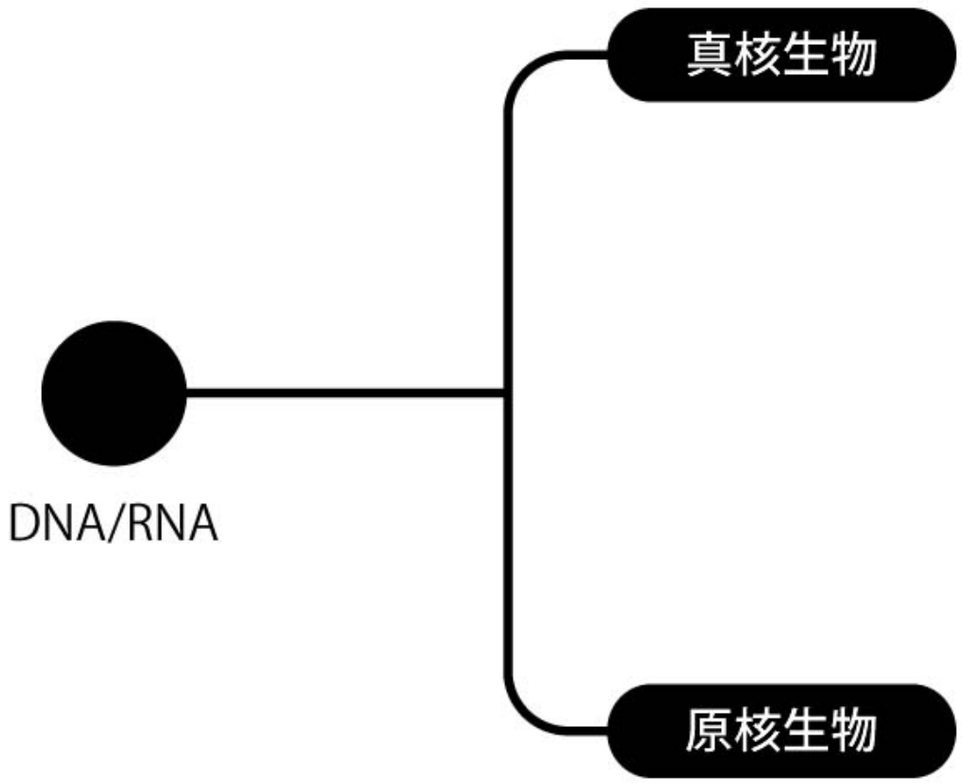
大きさは原核生物の数10倍～100倍で、ミトコンドリアなど、多くの細胞小器官を持つ

- 核をもたず、染色体がむき出し
- 遺伝子がねじれた円で閉じている



遺伝子は二つで一つですがここでは形を分かりやすくするため一つで描いています

菌の生命陰陽　First step　最初の内骨格性と外骨格性

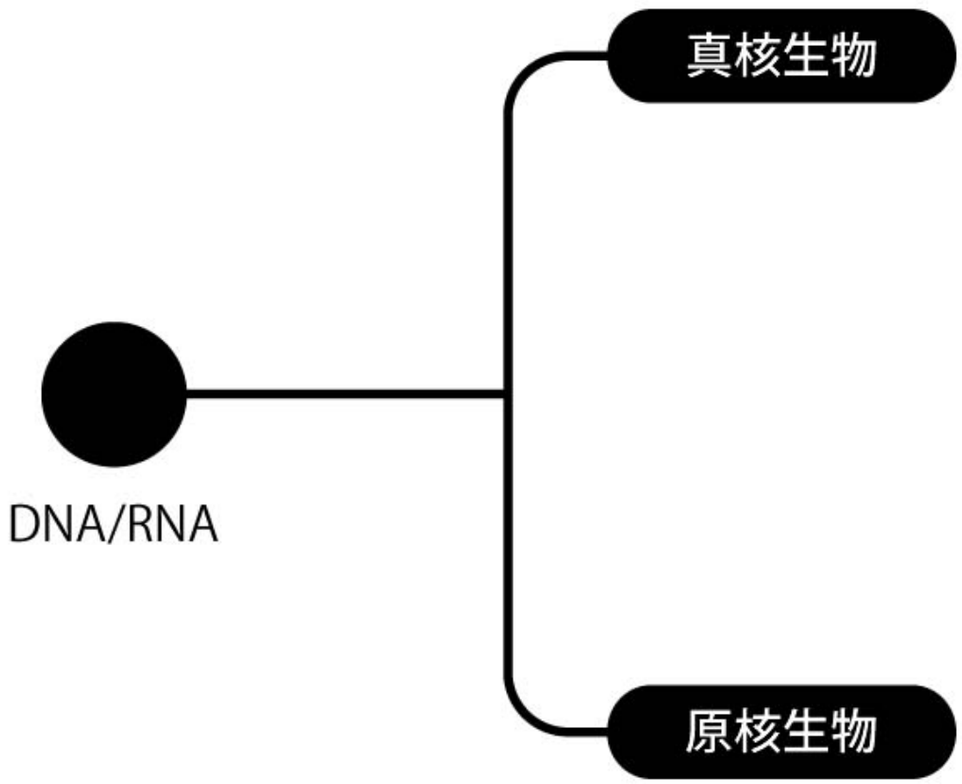


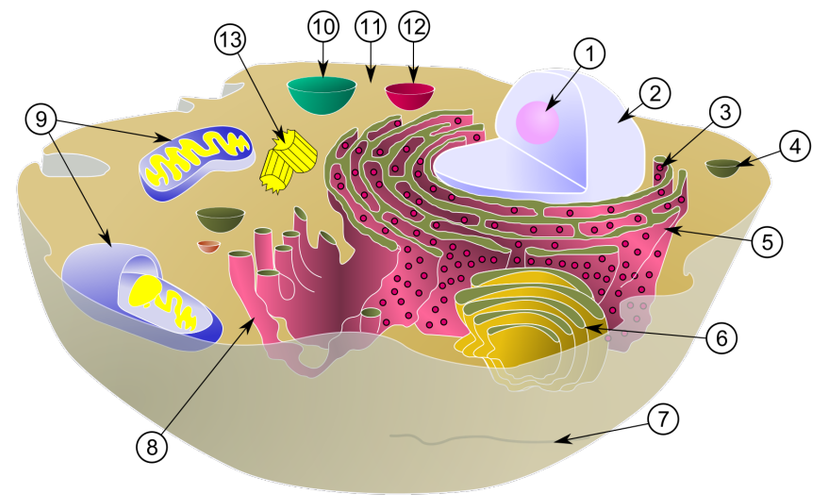
細胞壁は無いか、薄く膜状
外側が柔らかく、中心に核があり、
外界に開放的
▼
内骨格的

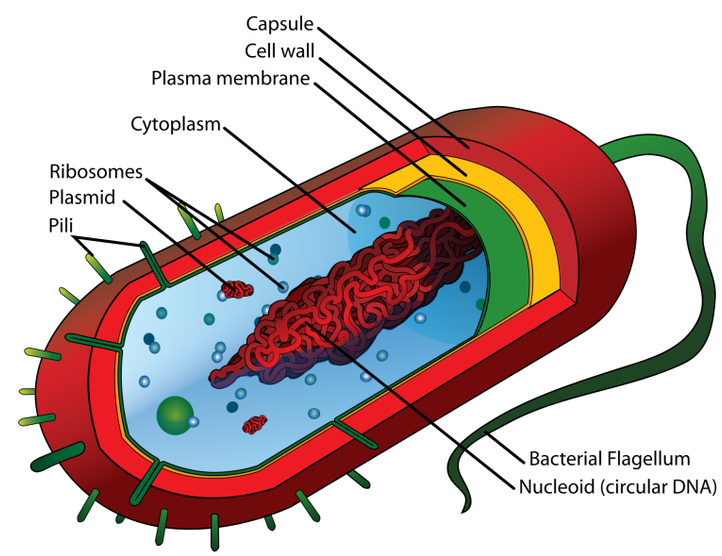
厚く硬い細胞壁で外界と遮断
外側が硬く、外界に対して閉鎖的
▼
外骨格的

遺伝子は二つで一つですがここでは形を分かりやすくするため一つで描いています

菌の生命陰陽　First step　最初の内骨格、外骨格

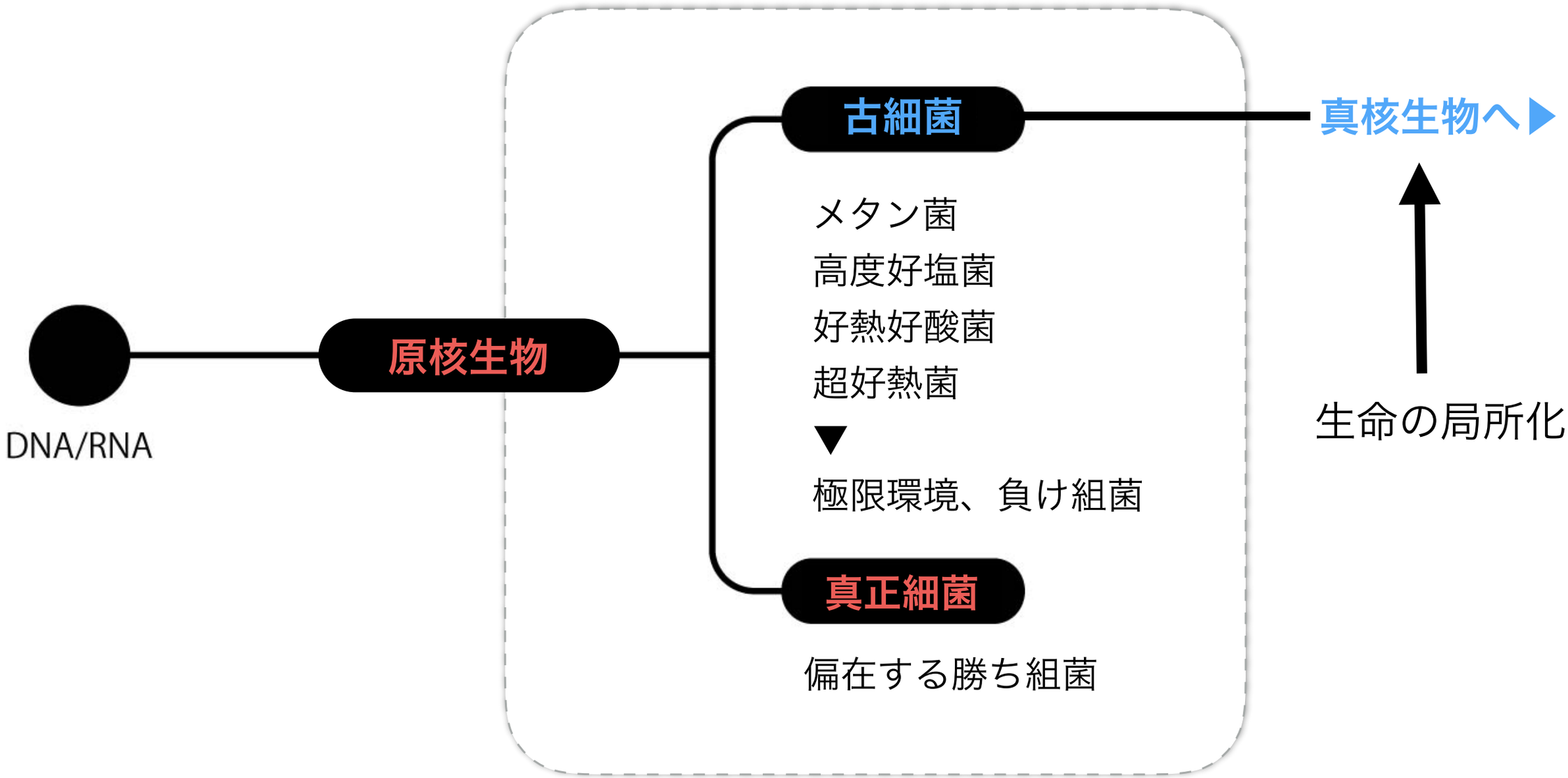






菌の生命陰陽　First step　最初の内骨格、外骨格

原核生物から真核生物への進化プロセス



真核生物誕生の時に起きたこと

- 細胞壁が薄くなった。もしくは壊れた。
- 外部を内部に取り込みやすくなった。
- リング状の遺伝子が切れて直鎖のでになった(結が切れた)
- 遺伝子の両端にテロメアが出来、老化=生命時間が生まれた。
- 遺伝子の交換、組換えが柔軟になった。
- 細胞壁の一部から核膜ができた。
- 他の原核生物(他者)を取り込んだ。(ミトコンドリア、葉緑体)
- 活性酸素(毒)に適応する仕組みが発達し利用できるようになった。
- シアノバクテリアが酸素を生成したことにより、多くの嫌気性細菌(おもに原核生物)が死滅。しかし、真核生物は酸素を利用できる好気性細菌を取り込むことで進化した。

真核生物誕生の時に起きたこと

❶リングの結びを開き、螺旋となり、垂直進化の道を開いた。

❷外部と内部を反転させ、外部を内部化した。

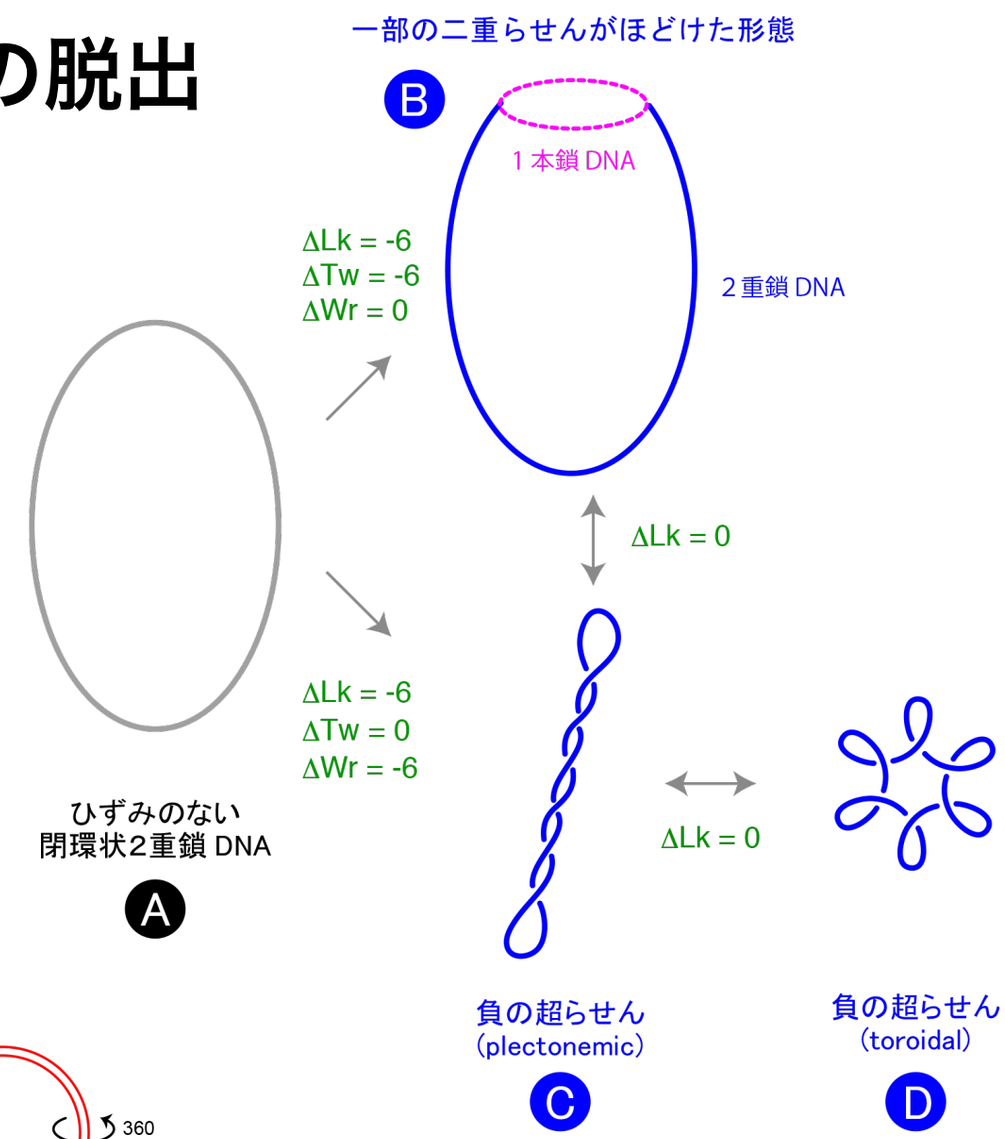
❸他者を取り込み、共生、統合した。

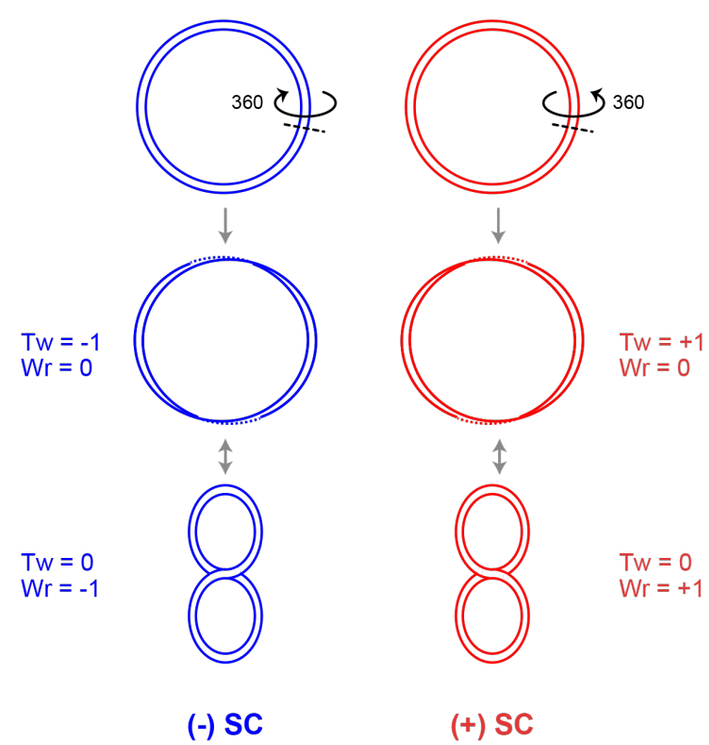
❹毒を力に反転させ、力に変えた。

❺テロメアによる老化・死・生殖の誕生

❶結びのほどけ　グルグルからの脱出

原核生物は染色体の代わりに核膜に包まれない、核様体をもちます。ほとんどの場合、これらは、リング状で末端にテロメアを持ちません。核様体のDNAには負のDNA超らせん(DNAの螺旋に捻れが加わった、高次螺旋構造)があり、これが核様体をコンパクト化するメカニズムのひとつとして働いています。





◀上から見て時計回が負の螺旋

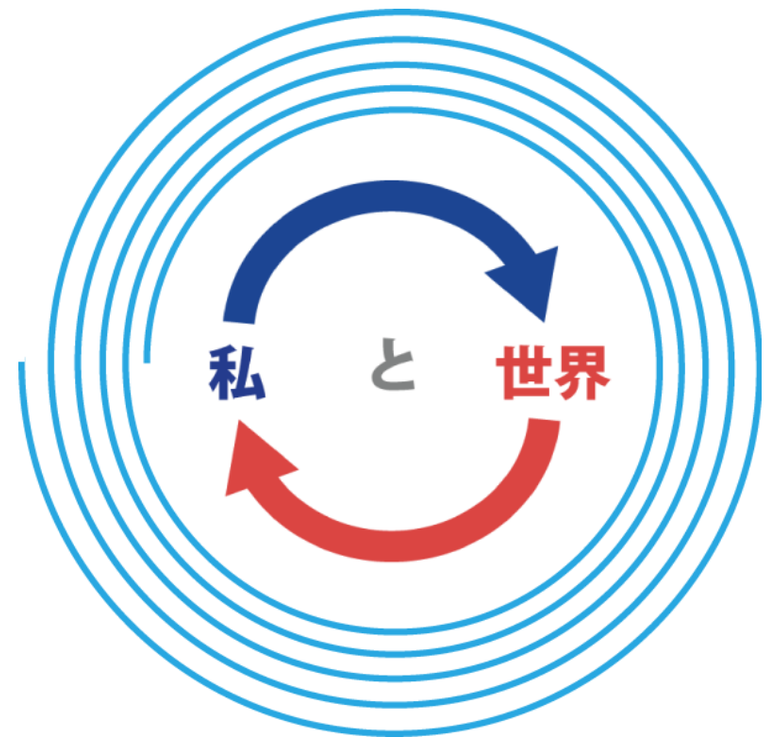
❶結びのほどけ　グルグルからの脱出

アニマンダラのウロボロスサーキット

水平進化側(外骨格)

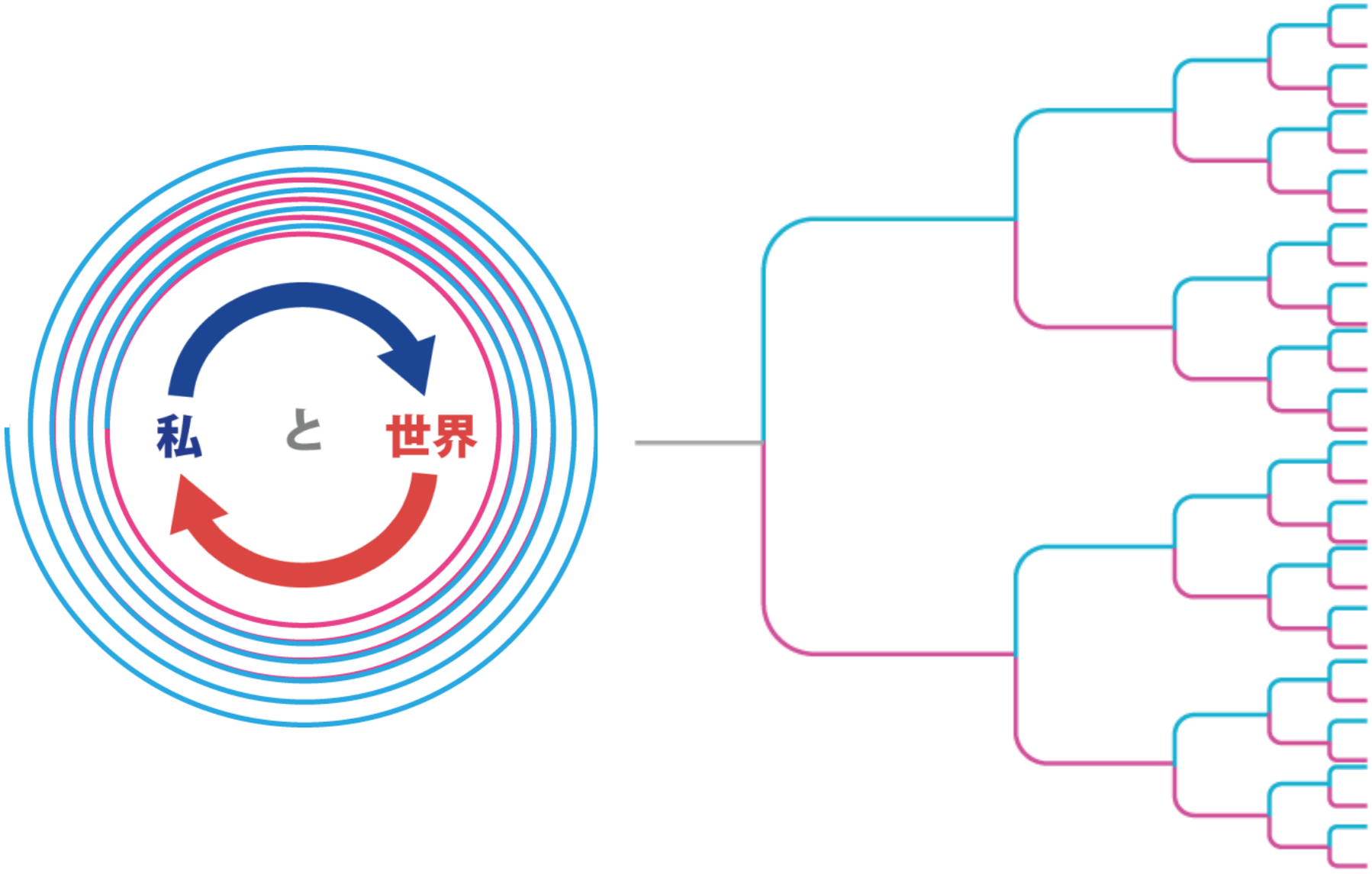
一元的な原理(最適化)の中で、発展。
閉じた円が旋回する。
円は波紋のように拡大して行く

垂直進化側(内骨格)



世界と私の二元性。
その対立を乗り越えようと新しい視座、
新しい環世界を生み出します。開かれた
螺旋を描きます

ウロボロスの旋回運動と
生命系統樹の関係性

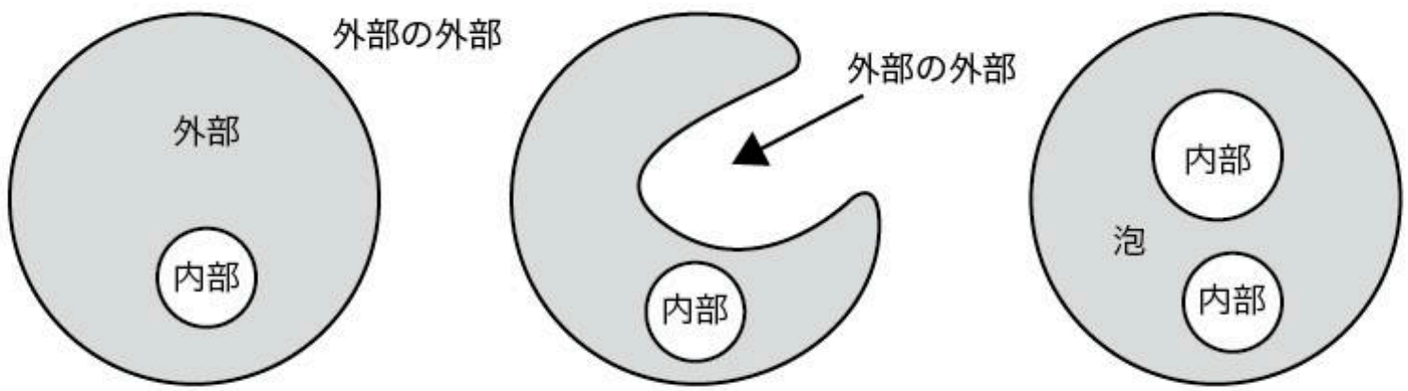


私と世界どちらが先手かをめぐり二匹の蛇は互いの尾を食らいながら
次元上昇の中で、２つの世界を分岐し続けます

❷外部の内部化

○内骨格生物に見られる垂直進化は、外部の内部化によって進行します。(アニマンダラ・垂直進化の法則)

外部の外部は内部（時空の外部の霊的世界は物質として表出する）



"天海さんもレクチャーの中で何度も言っていたのが「外部の内部化」という話。この外部の内部化というのは動物の形態形成のみならず、細胞レベルでも見られるとても重要なトポロジーなんですが、実はこれが内在を貫いている存在の一義性が持った構造原理とも言っていいと思います。ヌーソロジーがいつも「物質とは霊だ」と言っているのも、基本はこの外部の内部化というトポロジー的な視点からです。昨日の対談では、それをカタカムナを意識して「泡（アワ）」に喩えて紹介しました"

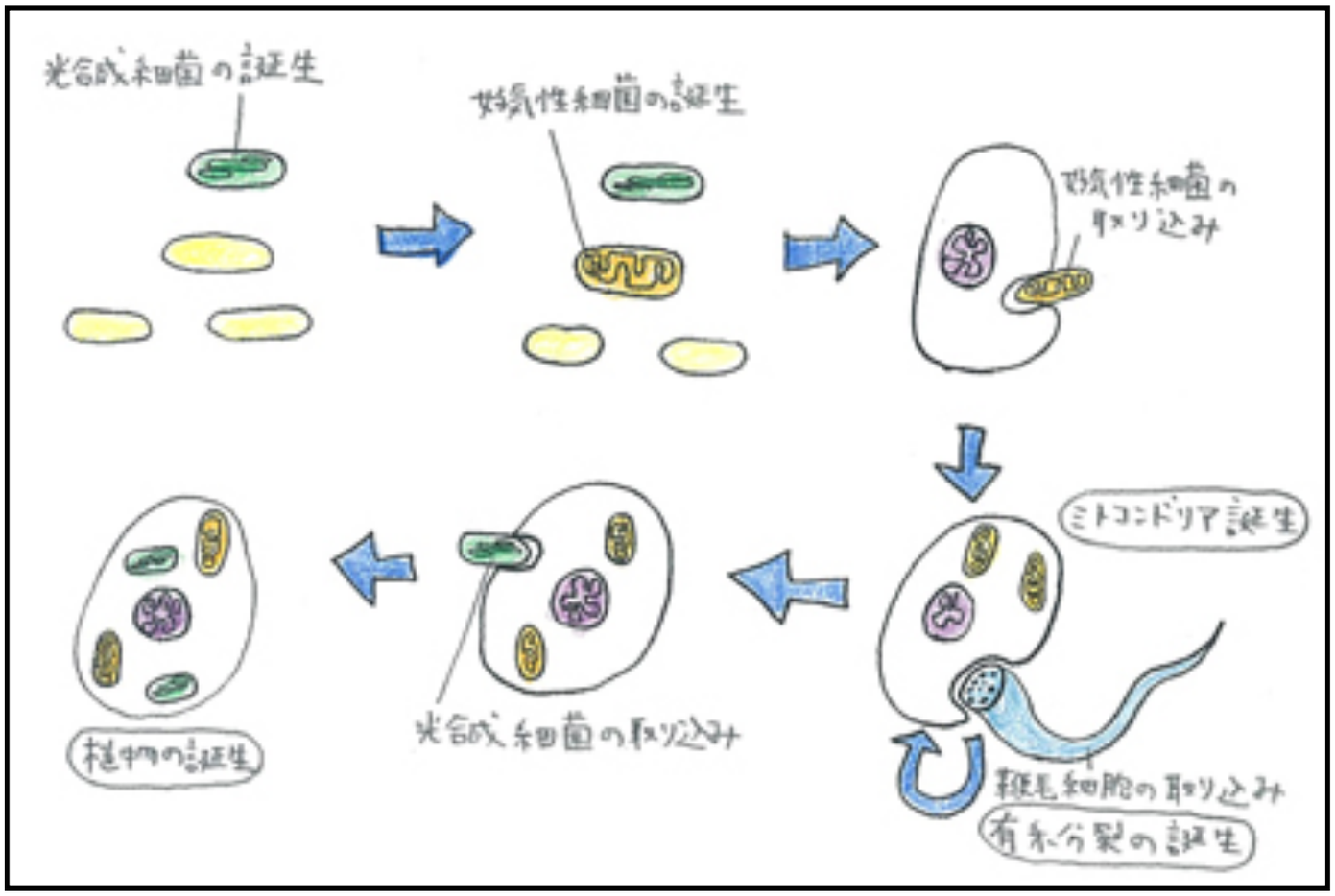
▲2015/7/26　関西アニマンダラレクチャー第２弾　半田広宣氏との対談についての、氏のFacebookページから引用

❸他者を取り込み共生する

他者との二種類の融合

捕食 ▶他者との同一化 。他者を吸収し一つになる。⇒成長○ 進化✖

内部共生▶他者を他者のまま取り込み、差異をもったまま統合⇒進化○



真核生物は、真正細菌である嫌気性細菌(葉緑体の元)と好気性細菌(ミトコンドリアの元)、鞭毛中を取り込んで統合したという説があります。
これには、捕食説もありますが、捕食と内部共生の根本的差異の理解は重要です。

◀内部共生説リン・マーギュリスの説明図

共生原理は、動植物を生み出した真核生物の多細胞化の仕組みにも通じています。

カギの言霊

か

力。現象、カタチ。

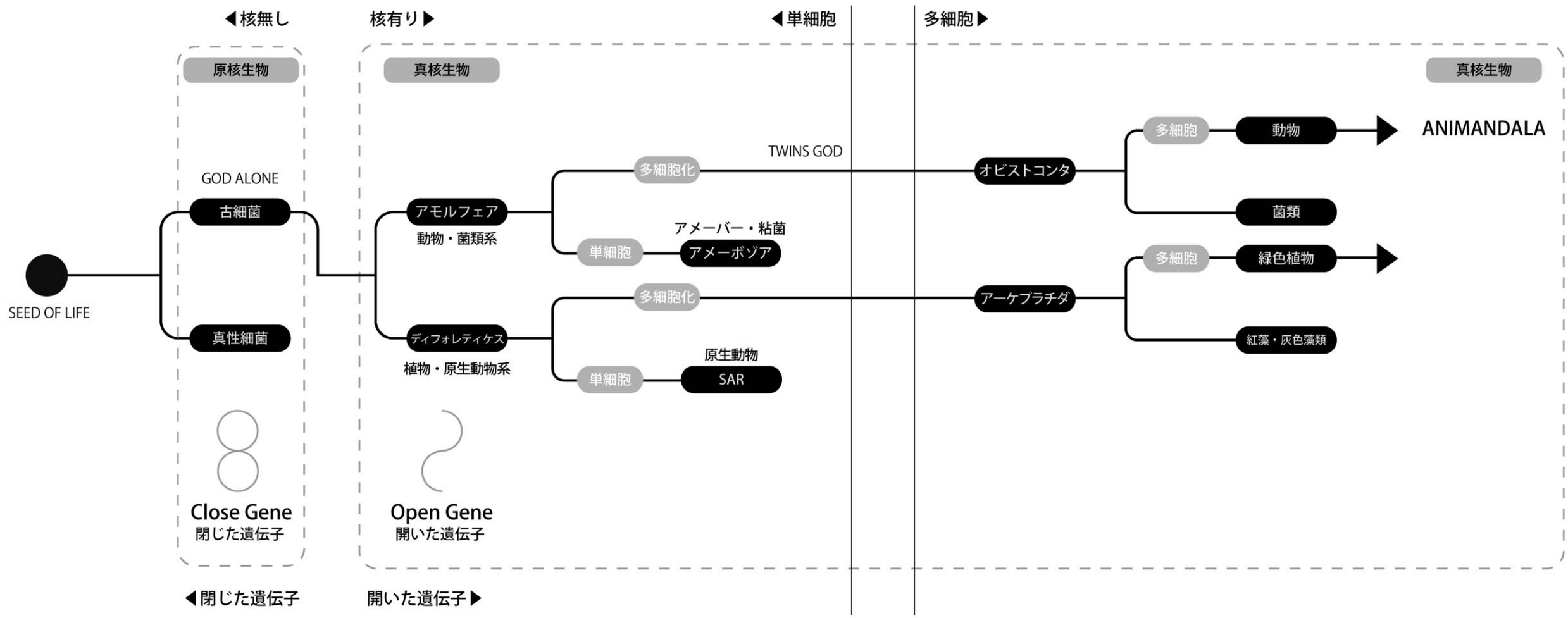
ぎ

エネルギー、気、息吹、意識、心、兆し、発生すること、見えざる存在、霊、魂。ハワイでは、放つこと、考えを束ねたもの、力。濁点はエネルギーの方向が反転する

▼

顕在化した力と、反転した見えない力

▶カタカムナ(六甲カタカムナ土居、吉野信子さん他),白川神道などより参照


◀核無し
核有り▶
◀単細胞
多細胞▶
原核生物
真核生物
真核生物
SEED OF LIFE
GOD ALONE
古細菌
真性細菌
アモルフェア
動物・菌類系
ディフォレティケス
植物・原生動物系
多細胞化
単細胞
アメーバー・粘菌
アメーボゾア
多細胞化
単細胞
原生動物
SAR
TWINS GOD
オビストコンタ
アーケプラチダ
多細胞
動物
菌類
多細胞
緑色植物
紅藻・灰色藻類
ANIMANDALA
Close Gene
閉じた遺伝子
Open Gene
開いた遺伝子
◀閉じた遺伝子
開いた遺伝子▶

菌(見えない生命)と動植物(見える生命)の間には、沢山の"禁"があります。その閉じた世界を開く、天の岩戸開きを、内骨格系進化と見てとることができるでしょう。
真核生物は、サークル状のDNAの禁(禽)を解き、そして酸素という毒を、燃える炎の力へと変えました。開かれた体は、外部を内部に変換し続け、遂に鳥(禽)や人間など内骨格的動物を完成させるに至りました。彼らは、酸素のエネルギー変換を最大限発達させ、温血動物として、遥か外部の黄金の力、*太陽を内部化したのです。

*爬虫類、昆虫など変温動物は一定の温度が必要で、特に爬虫類は日光浴を必要とします。